

今日 3 週間の中学校での教育実習を終えました。緊張で始まった教育実習でしたが、たくさんの先生方に支えられ、また、たくさんの生徒に助けられながら無事終えることができました。私は主に中学二年生のクラスを担当し、朝の会や帰りの会で話をさせてもらったり、学活や道徳、総合を参観させていただいたり、英語の授業をさせていただいたり、貴重な機会をたくさんいただきました。その中で生徒指導や進路指導なども実際に見せていただき、改めて教師という仕事の大変さを痛感しました。児童・生徒・学生として過ごしてきたこれまでの目線では、「授業をする先生」しか見えていなかったのが授業をすることが先生の主な仕事だと思っていましたが、今回の実習で実際に先生方の 1 日の仕事を体験して全くそうでないことに驚きました。授業も各教科担当の先生はとても大変そうで、それに加えて授業と同じくらい学級経営や生徒指導、部活においても仕事が多く、1 日の流れが生徒だった時の 5 倍くらいのスピードで終わっていく感覚がありました。大学では学べない、体験できない貴重な時間でした。

この実習を振り返ると学んだことは数えきれないほどありますが、ここでは実習中に学び、意識しながら取り組んだ点を二点あげたいと思います。

一つ目は生徒の様子を見るということです。これは当たり前なことだし、大学の「生徒進路・指導論」の講義でいわれ続けていたことで私もわかってはいたのですが、実際にあわただしい学校現場で生徒一人一人の様子を見るのがどれだけ大変か今回の実習で身をもって感じました。実習中は幾度となく先生方が生徒の様子の変化に気を配り、声をかけていた現場を見ました。生徒と出会って数日の私にはわからないこともありましたが、私も生徒の様子を見る余裕ができてからは徐々にわかるようになってきました。生徒の様子の変化に気づけると、その日一日の授業中の関わり方や授業外でのサポートを工夫できるので生徒との信頼関係もうまく築けると思いました。生徒の小さな頑張りに気が付いて声をかけて褒めると生徒のモチベーションやその後の行動の変化につながるようになりました。授業中の生徒の様子をしっかり見極めることができると、生徒の理解度に合わせたスピードで授業を作り上げることができます。逆にうまく見ることができなければ、授業の進度においてつかない生徒や退屈な生徒が出てくるので「生徒の様子を見る」ことの重要性を改めて感じました。

2 つ目は生徒をめあてやその活動の目的に導くためのサポートの仕方です。英語の授業であれば初めに提示しためあてに沿って活動するための課題を子供たちに投げかけ、疑問を持たせることが必要だし、総合などで修学旅行の調べ学習をしているときなどは生徒が活動の目的から外れないように導いてやりながら活動を進めます。しかしこの導くためのサポートは「生徒主体でやっているように見せる」、「生徒に自分たちで活動していると感じさせる」必要があるのであくまでサポートとしての動きです。その加減がすごく難しいと感じ

たし、その分面白いとも感じました。先生方の授業を参観させてもらったときには活動の目的から外れないようにサポートしている声掛けを何度もききました。生徒から予想もしていなかった質問や反応が返ってくる時もあるので難しくと思いますが、生徒を主体的に活動させ、考えさせるとても大切な過程だと思うので今後も意識して大切にしていきたいです。

今回の実習ではたくさんの先生方にご指導いただき、過去の体験を用いてこういう時にはどういう方法があるのかなども具体的に教えていただきました。また、至らない部分も多かった中でたくさんサポートしていただき、充実した実習にすることができました。とても刺激的で学びの多かったこの 3 週間で体験したことから得られた課題は、今後に生かしていけるようにしっかり改善していきたいです。